Sono 先生へ感謝をこめて

辻　　英　子

Sono 先生にはじめてお会いしたのは今から30年以上前、私が本学の３年生のときです。以来、先生には恩師として、また同僚として一方ならぬお世話になりました。先生の担当される Oral Interpretation という、劇や、詩の朗読をする授業を取った私は、その流麗で明晰な語り口に、「英語というのはこんなに美しい言語だったのか」と目を開かれる思いでした。ただ、始めのころ、クラスに見知った顔がなく、心細さから授業についていく自信が持てず、研究室へ相談に行ったことがありました。

今から思えばずいぶんと軟弱な私の悩みに、Sono 先生は根気強く耳を傾けてくださり、頑張って授業に出席するようにと励ましてくださいました。そのときの先生の暖かさ、優しさ、細やかなお心遣いに勇気を与えられ、ほどなくしてクラスに溶け込めるようになり、劇の上演という共同作業を通して、クラスメイトとの絆を深めることもできました。このようにして Sono 先生は、私に英語劇というものに親しむ大きなきっかけを与えてくださったのです。

更に、翌年 Shakespeare Production に参加できたのも、Sono 先生のおかげでした。４年生の４月、大学院の受験準備と教育実習、ゼミとは別に英語での卒業論文も抱えていた私は、希望していたＳＰを取ることをあきらめました。そんなある日、私がＳＰを登録していないことをクラスメイトから聞かれた Sono 先生は、考え直して履修するようにと熱心に薦めて下さいました。

幸運なことに、その年は尾崎先生ご自身も追加メンバーを募っておられたので、両先生から励ましの言葉をいただき、迷った挙句、やはりＳＰに参加しようという気持ちになりました。（尾崎先生には卒業論文もご指導いただいたので、結果として私の力不足からずいぶんとご迷惑をかけてしまったこ

とを大変申し訳なく思っています。）あのとき、Sono 先生の強いお薦めがなければ、私はＳＰを取らなかっただろうし、今、母校でＳＰに関わることもできなかったと思うと、改めて感謝の気持ちで一杯になります。

その後、教員となってからも、Sono 先生は事あるごとに、一歩踏み出す勇気を与えてくださり、後押しをしてくださいました。何よりもＳＰの担当者として、その豊富な舞台でのご経験から、演出についてはもとより、参加学生一人ひとりの精神面のケアにいたるまで沢山のきめ細かいアドバイスをいただきました。その一つひとつが今の私の糧となっています。先生は学生にとっては母であり、私にとっては姉のような慈愛に満ちた存在でした。

父のような存在であった石田先生、尾崎先生がご退職になられ、ＳＰの大黒柱を失ってしまった後の日々を、何とか頑張ってこられたのは Sono 先生が共にいてくださったからです。今、先生の去られた寂しさがひしひしと身にしみ、呆然とする毎日です。

しかしながら、先生のご恩に少しでも報いるためには、いつまでも嘆いているわけにはいきません。今こそ、先生が教えてくださった困難から逃げずに前向きに取り組む姿勢を忘れずに、微力ながらＳＰの継続に力を注いでいきたいと思います。

Sono 先生、長い間、本当にありがとうございました。どうぞこれからはご自分のことにもっと時間をかけ、いろいろな新しいことに取り組んでください。先生の益々のご健康とご活躍をお祈りしています。